

中高生の図書館利用に対する公共図書館と学校との連携に関する検討

高橋 智子

2021 年度以降、中学校・高校で順次実施される新学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現のため、学校図書館や地域の図書館の活用が求められており、今後、中高生がより一層さまざまなテキストを利用して学習等の活動に取り組むことになると考えられる。しかし、公共図書館との連携を実施した中学校・高校は小学校に比べ少なく、公共図書館を利用する中高生も少ない。公共図書館は、中学校・高校との連携や中高生による利用の促進のため、「テキスト」という観点から連携を検討する必要がある。

そこで、本研究では、公共図書館が、中学校・高校のどのような活動で、どのようなサービスや資料等を提供し、どのように利用されたかを明らかにし（目的 1）、中学校・高校の活動で公共図書館が利用された事例の詳細な調査によって、公共図書館の中学校・高校の活動での活用や中高生の利用の促進のために、必要なサービス、資料、連携体制等を検討する（目的 2）。本研究では、調査 1 で目的 1、調査 2 で目的 2 を検討する。

調査 1 では関東地方の公立図書館 104 館を対象に、中学校・高校との連携の有無や、2019 年度により力を入れて連携を実施した校種及びその校種との連携の内容・状況等について尋ねる質問紙調査を実施した。回答は 91 館から得られた（回収率 87.5%）。分析の結果、中学校との連携では、「資料の貸出・提供」や「職場体験」、高校との連携では、「資料の貸出・提供」や「図書館主催の企画展示やコンクール、イベントへの参加・協力」等が中心に行われていた。中学校・高校ともに利用された「資料の種類」は、図書中心であったが、一部の活動・図書館では、雑誌や新聞、パンフレットやリーフレット等の印刷資料、オンラインデータベース、ウェブページ等も利用されたことが明らかになった。

調査 2 では調査 1 の対象館のうち、連携の内容や資料の種類、実施方法等に特徴のあった図書館計 15 館を対象に、中学校または高校との連携について、実施する理由、事例の概要、連携における資料提供、学校や生徒への働きかけ、課題、連携の今後等を尋ねる質問紙調査を実施した。回答は 14 館から得られた（回収率 93.3%）。分析の結果、テキストを利用した活動の支援として、レファレンスサービス等による活動内容に合わせたさまざまなテキストの提供や活動の実施時期・利用場面に合わせた支援、図書館業務のノウハウを生かした支援が行っていたこと等が明らかになった。資料については、図書に限らず、学校行事の訪問地のパンフレットや図書館独自の資料等、多様な形態の資料の収集・作成・提供を行っていた。連携体制に関しては、連携事業に関する図書館と学校間の取り決め等を行っていた。

以上の結果から、中学校・高校との連携及び中高生の利用を促進するために、公共図書館はテキストを利用した活動の支援等のサービス、多様な資料の作成・収集・提供、継続的な連携体制の構築のための取組等を行っていくことが期待される。

（指導教員 鈴木佳苗）